

# 青松とちぎ

新潟大学 人文・法・経済学部同窓会 栃木県支部会報



2021.5.15 第4号

発行責任者 藤沼哲史

事務局 〒320-0821

宇都宮市一条 3-2-31

## これから

### 会員相互のつながりを大切に

新潟大学人文・法・経済学部同窓会栃木県支部支部長

昭和49年人文・法学科卒 藤沼哲史

会員の皆さん、コロナ禍をいかがお過ごしでしょうか。

感染の終息は依然として見えておらず、3回目の緊急事態宣言がゴールデンウイークを跨いで発出され、各自自治体の緊急措置等も全国津々浦々に及んでいます。

母校新潟大学でも、昨年引き続き後輩たちがリモート授業をはじめ不自由な生活を余儀なくされ、また、新潟市内での各支部との同窓会の会議も昨年同様書面による会議となるなど、影響が及んでいます。

対策の要となるワクチン接種も自治体により対応はさまざまで、若い

世代にまで行き渡る時期となると不透明な状況です。

このようなことから、危険な変異株による感染拡大のリスクを回避するため、残念ですが今回も総会・懇親会を中止(別途通知と重複)させていただきます。

今後も、会員相互のつながりを大切に情報共有、交換を図ってまいります。どうか会員の皆さんには、母校や後輩たちに思いを馳せつつ、次回お会いできるまでご自身の健康にはくれぐれも留意されますよう祈念いたします。

最後に、今回は三人の方々へ寄稿をお願いしました。新潟での思いを共感できるのではないかと思います。それでは。

#### ◆ 気軽に行けない

#### 今だからこそ！

#### ネットの新潟大学・新潟市に関する情報

- 新大関係ホームページ
  - [新潟大学人文・法・経済学部同窓会 \(niigata-u-jhk.com\)](http://niigata-u-jhk.com)
  - [新潟大学 \(niigata-u.ac.jp\)](http://niigata-u.ac.jp)
- YouTube 関連
  - [新潟大学 - YouTube](#)
  - [にいがたTV - YouTube](#)
  - [大好き新潟 - YouTube](#)
  - [BSN 新潟放送公式チャンネル - YouTube](#)

※その他、多くの YouTuber が新潟の情報を発信しています。在宅で新潟に浸ろう！

#### ◇ 支部会費納入を

#### お願いします

- 栃木県支部は、県内在住の同窓生の交流を促進し、情報をお伝えするため活動しています。
- 同封の振替用紙での会費納入をお願いします。

#### ◇ 投稿を歓迎します

- 皆さんの学生時代の思い出や近況を掲載します。(1,000~1,600字程度で)

#### 【送付先】

〒320-0821 宇都宮市一条3丁目2-31

藤沼 哲史 宛

e-mail: [fujinuma@eco.ocn.ne.jp](mailto:fujinuma@eco.ocn.ne.jp)

## 新潟大学の思い出

昭和47年人文・経済学科卒

中村 恒郎

大学を卒業してから、今年ではや49年が過ぎました。卒業後は、地元金融機関に就職し、さらに関連会社で働き、65歳で退職しました。

退職後は地域に恩返しをすべく、地区の行政区長や矢板地区交通安全協会西部支部長の役職を経験しました。2年前に古希も過ぎて残された人生は、「明るく・楽しく・前向きに」をモットーに過ごしていきたいと思っ

て、この辺で学生時代の話に戻してみよう。大学での部活動は合気道部に所属していました。

今でも忘れられない出来事があります。それは、2月のある日のこと、その日は昼頃から雪が降り始め、本降りとなり夕方までにはかなり積もり、とても寒い日でした。夕方6時からは、合気道部の練習がある日



(筆者近影)

す。もちろん武道場には、冷暖房の設備はありません。

指導してくださる方は、大村先生と申しまして新潟市内の民間会社に勤務しており、定時で退社後駆けつけてくださっています。当時部員は10数名いました。

今日は寒いから練習をサボるかなとも考えましたが、折角先生に来ていただいたのに部員が誰も行かなかったら先生に申し訳ないと思い、気持ちを奮い立たせて武道場に出掛けました。案の定、部員はだれも来ていませんでした。結局その日は、先生と二人きりでした。

先生とマンツーマンで休憩時間をはさみながら、約二時間指導していただきました。さすがにその時は、

くたくたに疲れ切つてしまいました。後になって考えてみると、この時に責任感と我慢強さが養われ、その後の社会人生活に役立ったのかなと思つています。

お陰様で大学卒業時に合気道本部から3段免状をいただき、頑張った甲斐がありました。

私達の大学時代は、新潟市西大畑にある古い校舎で学びましたが、4年生の時はゼミナールを除き、単位はすべて取得していたので、新しく完成した五十嵐浜の校舎では勉強する機会はありませんでしたが、私は合気道部の指導・練習で週2回五十嵐浜の武道場に通うことができました。

また、私が在学中引越した3度目の下宿は、古町の繁華街と日本海の海岸のまんなか辺にあり、どちらも徒歩で20分ぐらゐの距離でした。繁華街の居酒屋(越路会館)では、仲間たちとよくコンパをやりました。確かビール大瓶が180円だったと思います。近くには、私がアルバイ

トをした北光社(書店)があり、夜の6時から9時迄で時給130円でした。

海なし県で育った私としては、海に憧れを抱いており、6月の日が長い夕暮れ時、よく海岸に行つては沈む夕日を見ながら、物思いにふけつたものです。

残念ながら、一緒に行ける女性がいなかったことだけが、今でも心残りです。

これらのことも今となつては、青春の懐かしい思い出です。



## 海と坂道の記憶

平成10年法学部卒業

富永 治美

平成9年度法学部卒業の富永と申します。新潟大学を卒業して20年以上経ち、現在フルタイムの仕事しながら高校生と小学生の2児の母として子育て真っ最中、時間に追われるばかりの毎日を過ごしております。今回藤沼支部長よりお声掛けいただき、恐縮ですが筆を執ることとなりました。

現在私は茨城県西部のとある自治体に勤務し、人事主管課の一員として職員採用、人事評価、分限懲戒等を担当しています。人事担当としては3年目です。なぜか昨年頃から急に白髪染めのペースが上がりだしました。これを、単に老化によるものだと片付けてしまっていたいいものか鏡を見るとため息が出そうです。

私の仕事上の目下の悩みは、人事評価の精度を上げ、納得感のあるものにするための方策と、職員への制度浸透の手法です。多くの職員に理解され、納得してもらうためにどの

ような制度改善と説明をすべきか、担当になってからずっと考えています。なかなか答えが出せそうにありません。人が人を評価し、評価されることの難しさを肌で感じているところからです。

また、間もなく職員採用に向けても動き出さなくてはなりません。優秀な人材の確保のために出来る仕掛けや工夫はないか、日々試行錯誤しています。ホームページに工夫を凝らしたり、募集要項をわかりやすいものに変えたりと、小さなことですが改善を重ね、多くの応募につながるように努力しています。努力が大きな成果につながるまでは少し時間が必要かもしれませんが、毎年の新規採用職員との出会いを楽しみに頑張っているところです。

このように日々を過ごす中で、学生時代を新潟で過ごした思い出が、今の私の支えになっています。強烈に覚えているのは、冬の日本海と、坂道です。私は、大学4年間を五十嵐寮で過ごしました。五十嵐寮はキャンパスの端にあり、授業に行くためには寮の横の坂を上がらなくてはなりません。坂の下から見ると授業

に行く気がなくなるような長い坂です。(当時の私にはそう見えました。)とにかく坂を上がるのがおつくうで、1・2年のうちは頑張っただけで、1・2年のうちは頑張っただけで自転車で乗っていましたが、そのうちに歩いていくようになり、お恥ずかしい話ですが学年が上がるにつれて(単位を意識しつつ)真夏と真冬は部屋から出ない、といったことも若干あったような気がします。寮の横の坂は、いつも私のやる気の前に高く立ちはだかっていました。



五十嵐浜

そして授業のないとき、落ち込んだとき、よく一人で海を見に行っていました。寮の裏手からわりとすぐ五十嵐浜に出ることができたように思います。特に冬の空の灰色の空と、荒い波立つ海の境のつかない感じが好きでした。眺めているだけでへこたれた気持ちのリセットでき、頑張らなきゃと思えた記憶があります。

新潟を離れてからかなり経ちますが、折に触れて坂の記憶や海の記憶が蘇ります。心が折れそうなとき、疲れたとき、いつも思い出すのは新潟の海と坂道です。落ち込んでも海を見て立ち直ったあの記憶が、今の私を奮い立たせてくれます。筆を執りながら振り返っていくと、学生としての本分はさておき、記憶に残るいい時間を過ごすことが出来たのだなあとしみじみ思います。

こうして学生時代を振り返り、今の仕事について改めて向き合うきっかけをくださった藤沼支部長はじめ皆様方に心から感謝いたします。そして、栃木県支部の皆様とお会いし、情報交換できる機会を心待ちにしております。

ありがとうございました。

転々としつつの軸

平成11年法学部卒

藤浦 美紀子

引越しや転校を経験せずに育った私が、初めて居を移したのは新潟大学への進学でした。喜び勇んで始めた五十嵐地区での一人暮らしですが、関東育ちの私の持つ印象とはかけ離れた四月の気候には驚きました。入学式のために新調したスーツや、履き慣れないストッキングでは、とても寒く感じ、ぶるぶると震えたことを思い出します。



(藤浦さんご家族 「1たす1は?…」)

その仲間内の一人とは、卒業後間もなく家族としてタッグを組みました。栃木県警に就職した夫は、今市を皮切りに、宇都宮、足利、小山、東京：など、約二十年のうちに十回ほど 異動をし、それに伴い短い周期で何度も転

法学部に在籍し、刑事訴訟法を専攻しました。日本には馴染みの薄い陪審員制度について学びました。多くの人にこの制度を知ってもらい考えるきっかけになればとの思いから、ゼミで陪審裁判劇を作り公演しました。小規模なイベントながらも、脚本作成、演劇練習、宣伝など、多岐に渡る仕事を経験できました。会場は街中にある商業施設、「NEXT 21」のホールでした。一から作ったものを公の場で丁寧に発表できたことは、この上ない喜びでした。仲間

居をしました。弱冠二五歳での駐在所勤務では、地域の方々が暖かく迎えてくださいました。鳩に囲まれた足利の饒阿寺、広々とした小山運動公園。転々とした五つの幼稚園、三つの小学校。東京での車無し子育てで付いた体力……。どこにも素敵な出会いや、印象的な景色がありました。知らない地が、思いの詰まった地になりゆく過程を何度も経験できたことは、今の私の軸になっています。

子どもたちの成長に伴い、家族の拠点を設けたく、宇都宮に定住して八年目になりました。ことばには表現が難しい思いが、時間をかけてじわじわと湧きあがり、保育士資格を取るに至りました。現在は保育園で働いています。様々な家庭状況の子どもたち一人一人が、そして各ご家庭が、安定感を持って過ごせるよう試行錯誤の日々です。

新潟で過ごしていた頃には想像もなかった現在の私ですが、人の奥の奥にある心の動きへの関心、それを追求したいという思いは一貫しています。これからも最良の友である夫と、子どもたちと手を取り合い、

たくましく愉快に過ごしていきたいと思っています。

編集後記

編集後記を載せるスペースが無くなりそうな勢いで3名の皆様から原稿をお寄せいただきました。それぞれご多忙の中執筆に取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。

西大畑で学ばれた中村さん達の世代も今や少数となりました。

人文学部(法・経済を含む)が西大畑から五十嵐に移転して今年で50年目となります。移転当初、五十嵐キャンパスの周りはスイカ畑と砂丘、松林ばかりでした。古町と西大畑を歩いた時の心象風景と内野と五十嵐のそれでは、全く異なったものであると言えるでしょう。西大畑には「どっぺり坂」という旧制高校時代の伝説を記憶する坂がありますが、五十嵐にも後世に語り継がれる新たな伝説が生まれているのかも知れません。いつの日か、どっぺり坂を下り、五十嵐浜にも行くことを夢見ています。